



# 藤原三代探訪のみち

6.8km

平泉町

JR東北本線平泉駅

## はじめに

本コースは平泉の中尊寺・毛越寺という全国的に有名な観光地を巡るコースです。平泉については多くのガイドブックや歴史史料で語られていますので小生のホームページではコースの説明や自分なりの感想を記すことにしたいと思います。「東北自然歩道

新・奥の細道」の名称は松尾芭蕉の「奥の細道」を由来としていますが、「奥の細道」紀行文中の最大の

山場は平泉だと思います。三代の栄耀一睡の中にしてから始まる平泉の段が真っ先に浮かんできます。それを考えると本コースは「東北自然歩道 新・奥の細道」の原点と言えるのではないかと思っています。

本コースは設置が古いせいなのか平泉という風致地区のせいなのか道標が他のコースと比べ極端に少ないと感じます。そのため6.8kmのコースですが大

いに道に迷ってしまいました。その反面、新しい発見があり良い機会だったと思います。(調査日2001年3月9日, 4月7, 28, 29日)

## 交通アクセス

JR東北本線平泉駅から徒歩がよい。

### 1. 平泉駅 桜岡橋

平泉駅から駅前の通りを直進し国道四号線を横断する。この通りは以前は雑然とした商店街が並んでいたが現在は古都を思わせる落ち着いた雰囲気改装された。緩やかな上り坂を進んでいくと突き当たりに毛越寺の山門が見えてくる。右手には観自在王院跡の芝生広場が広がる。桜岡橋へは毛越寺の山門前で左折する。この道は達谷の窟・巖美溪に至る県道である。桜岡橋まで歩道が設置されているので安心して歩くことができる。また2カ所に自然歩道の道標が



図1 コース略図

桜岡橋～毛越寺～中尊寺～義経堂～無量光院跡(6.8km)



写真1 平泉駅



写真2 桜岡橋

立っていた。高速道路の高架をくぐり県道に沿って1km程進んでいくとY字状の交差点に出る。ここで県道は大きく西にカーブする。南方に分岐する道にすぐ橋がある。この橋が桜岡橋である。コンクリート製の何の変哲もない小さな橋だった。Y字交差点の西側県道脇に自然歩道のコースが記された地図入りの案内板とバス停が立っている。なぜここが自然歩道の起点なのか最初は理解できなかった。藤原氏や芭蕉ゆかりの地でもない。桜岡橋自体も芸術的な建造物ではない。しばらく辺りをうろろしながらやっとその意味がわかった。自然歩道の案内板の隣に樹齢350年のエドヒガン(ヒガン桜、町天然記念物)が立っていた。桜岡橋の名称もこの桜からとったのであろう。まだ開花前のつぼみの状態なのが残念である。樹齢350年なので芭蕉が平泉を訪れた時はこの桜は存在していたことになる。

#### 東磐交通桜岡橋バス停時刻

巖美溪行 1008,1453

平泉駅行 1037,1522

平日のみ運行・祝土日運休・料金200円

## 2. 桜岡橋 毛越寺

県道を引き返し特別史跡・特別名勝の二重の指定を受けている毛越寺に向かう。山門で拝観料¥500を支払う。春先のせいかバスガイドの研修生が大勢いて賑わっている。毛越寺には何度か訪れたことがあるが本レポートの作成という責務(?)を負いながら見て回ると新たな発見がたくさんあって新鮮だった。

まず入口に入って左にある宝物館に入る。ここに



写真3 エドヒガンと案内図

は主に仏像、掛け軸、経文、調度品などの県指定文化財が展示されている。中尊寺護衡蔵のような国宝級ではないが見応えはあった。

次に芭蕉句碑に立ち寄る。芭蕉は元禄二年(1689)五月十三日に平泉を訪れた。句碑は二つ立っているか左が真筆を刻んだものでももとは高館にあったのを移設したものである。右は文化三年(1806)の副碑である。副碑の方は明瞭で読むことができるが本碑は風化で判別が難しい。平泉各地の売店で拓本が販売されている。碑に刻まれているのは言うまでもなく、「夏草や兵どもが夢の跡」である。

本堂前で線香をあげ本尊の薬師如来に参拝したあと順路に従い大泉ヶ池の周りを時計回りに回る。開山堂は校倉造りだった。金堂円隆寺跡に立つ。焼失のため現在は礎石が残るのみであるが、もし現存したら運慶作の薬師如来が拝観者を圧倒したに違いない。

玉石が敷き詰められた小川を渡る。案内板には遣り水とあり平安時代の遺構としては国内唯一だそう。以前訪れたとき(10年以上前)は気がつかなかっ





写真4 毛越寺入口



写真5 芭蕉句碑



写真6 浄土庭園州浜



写真7 浄土庭園出島石組

た。平安時代の貴族は遣り水の上流から盃を流しその盃が流れている間に和歌を詠んで遊んだとのことである。毛越寺の浄土庭園の中でも有名なのが州浜と出島石組である。砂州・入江・荒磯を表現したものであるが見る方向によってその趣が変わり心を捉える。州浜や石組は小生から見れば完璧な芸術品で簡単に真似できるような物ではない。何枚か写真を撮ったがこの計算された美しさは表現できないと思う。

### 3. 毛越寺 展望台

毛越寺と観自在王院跡の間にある道を北に向かう。右手の観自在王院跡は基衡の妻が建立したと言われ、現在は平泉町の史跡公園となっている。毛越寺に匹敵する位の大きさの庭園(広々とした芝生)があり中央に池(舞鶴ヶ池)を配している。この地はもともとは毛越寺並の浄土庭園であったがその後水田として利用され近年の発掘調査後史跡として保存されることになった、と案内板に記されている。遺構は明瞭に残っており、その壮大さは容易に想像できる。しかし復元された毛越寺庭園のように平安時代を強烈に感じさせる物はない。800年の歳月の流れなのだろうか。芭蕉が平泉を訪れた時、毛越寺は草ぼうぼうの状態だったと言われているがこの観自在王院跡の状態よりもひどかったのだらうと思う。

毛越寺の敷地の裏側に自然歩道の道標が立っていた。ここから展望台まで上り坂となる。左手にある毛越寺の霊園を大きく迂回しながら上っていく。展望台はピーク地点にあり東屋と加藤楸邨句碑がある。また、自然歩道の案内板(地図入り)も立っている。この地点からは南面の一関方面の展望がよい。

句碑には加藤楸邨の「奥の細道」に対する思いが述べてある。みちのくとは単なる地名を越えたもう



写真8 観自在王院・舞鶴ヶ池

ひとつのみちのく(みちのくびと(蝦夷)の悲しみ)と示唆している。

「邯鄲やみちのおくなる一挽歌」

邯鄲：コオロギの一種。夏秋の頃美しい声で鳴く。

邯鄲の夢：人の世の栄枯盛衰がはかないたとえ

挽歌：死者を悼む詩歌

恥ずかしながら辞書(岩波国語辞典)を引いて句の意味が理解できた。小生には五七五の中に語り尽くせぬ蝦夷の悲しみが凝縮されているように思われる。



写真9 自然歩道案内図(展望台にて)

#### 4. 展望台 中尊寺

展望台から先は従来の自然歩道(車道)か新設された遊歩道を進むことになる。車道の方は坂道を下ってゆくとT字路があるので道標に従って右折する。道標によればこのT字路を直進すると奥州藤原温泉藤原の館(5km先)や戸河内(へかない)サイクリングロードがあるとのこと。

新遊歩道の方は2001年4月時点で展望台前と金色堂の裏山付近が工事中だったがこの区間は車道と並行しているので歩行には支障無かった。新遊歩道の方が若干近道をしている。新遊歩道は展望台前の車道から南に分岐する未舗装の細道で特に案内板も立っていない。見失わないように注意。小生は展望台で中尊寺から歩いてきた方々から教えてもらった。最初はアップダウンを繰り返しその後一気に階段を下る。沢に沿った木道を進んでいくと車道に出る。ちょうどその場所は観光バスUターン場所となっている。

車道を下りしばらく進むと左前方に中尊寺裏手の駐車場が見えてくる。車道に沿って駐車場まで歩いたが遠回りだった。自然歩道のコースは車道に面する民家の前から金色堂直下に向かうあぜ道であっ



写真10 新遊歩道

た。駐車場から来る道と合流し坂を上るとちょうど金色堂と新讚衡蔵の間に出る。本コースを逆回りで月見坂から上ってきた場合この道が自然歩道のコースとは皆目見当がつかないだろう。

拝観料¥800(讚衡蔵と金色堂の共通券)を讚衡蔵入口で支払う。まず讚衡蔵に入る。旧讚衡蔵に比べ明るく近代的な建物になった。最初に三体の大仏(重文)に出会う。柔和な表情を見ると自然に心が安らぐ。よく見ると全身金箔である。反時計回りに館内を回る。次は華まん、燭台、机など国宝がずらりと並びその美しさにため息の連続である。七色の妖しい光が特徴の螺鈿(夜光貝)細工を施した物は間違いなく国宝に指定されているようだ。これらの精密で繊細な技法は工業社会の現代では再現できないのではないかと思う。現に能楽堂隣の資料館に複製が展示されているがこれらは形状は同じでも美しさは感じられない。次のコーナーはミイラの棺桶と装身具。向かい側が金銀字経。特に金銀字経は小生にも理解できる美しい楷書体で800年も前の物とは思えない。しかも紺地の紙に銀で罫線を引き金文字と銀文字の行を交互に繰り返すという意匠には驚かさ



写真11 金色堂入口





写真12 芭蕉銅像

れた。

金色堂。前にいた団体が去り館内は小生一人となった。金色堂は当然ながら金箔で塗られた堂として有名だが螺鈿細工も大量に使用されていることを再認識する。

経蔵と旧覆堂の間に芭蕉の銅像があった。「新・奥の細道」コースの中でその本家本元の芭蕉に出会える唯一の場所と思われる。平泉には芭蕉の足跡をたどりながら訪れる観光客も多いであろう。「奥の細道」にあるように先ず高館に上り次に金色堂を訪れここで芭蕉に出会うのでいい記念になるし満足すると思う。

## 5. 中尊寺 高館義経堂

月見坂を下り土産物屋が建ち並ぶ国道四号線にでる。四号線を渡る歩道橋の下に弁慶の墓(と伝えられている)がある。高さ3m程の大岩に弁慶の墓と刻まれていて目が奪われてしまうがこれは見るからに最近建てられたものである。その右側に柵で囲まれ立入禁止の領域がある。その中心部は幾分土盛りされていて五輪塔を中心とした数個の石塔が立っている。こちらのほうが古来からの弁慶の墓である。こじんまりとした小さな墓である。中世に中尊寺住職が詠んだ「色かへぬ松のあるしや武蔵坊」の句碑もある。

四号線を歩道橋で渡り東北本線の踏切を越えるとすぐに卯の花清水(湧水)がある。いつの間にか立派に整備された。芭蕉の弟子の曾良の句碑が右脇に立っている。

「卯の花に兼房みゆる白毛かな 曾良」

この句は奥の細道平泉の段の「夏草や・・・」の次行にある。今まで何度もこの前を通りながら気がつかなかった。このような有名な句碑だったことを今



写真13 弁慶の墓



写真14 「卯の花や・・・」句碑



写真15 高館義経堂



写真16 高館から北上川・東稲山

回初めて知った。

高館への行き先を示す大きな看板に並んで自然歩道の道標(平泉駅1.1km,中尊寺0.6km地点とある)が左手の土手の中腹に立っている。道標に従い左折する。民宿の前を通過し坂道を進む。石段を上ると視界が開け眼下に北上川,正面に束稲山を臨む。小生が訪れた3月はまだ開館期ではないため義経堂の扉は閉ざされていた。義経の時代は北上川はもっと東を流れていて高館自体はもっと広々とした場所だったようだ。その後の北上川の流路変転による浸食により狭い稜線上にかろうじて義経堂が残ったという感じだ。この場所に訪れるのは小学生の遠足以来なので25年ぶりくらいである。現在北上川右岸に国道4号線バイパスを建設中で数年後には眼下の風景は一変してしまうのだろう。

石段の上り口に伝説義経北行コースの案内板が立っている。

### 伝説義経北行コース・高館

悲劇の名将と世にうたわれた源九郎判官義経は兄の頼朝に追われ,文治五年(1189年)四月,平泉の高館において三十一歳を一期として自刀したが,短くも華麗だったその生涯を想い,“義経は,その一年前にひそかに平泉を脱し,北をめざして旅に出た”という伝説を作りあげたのである。世にいう「判官びいき」であろう。

その伝説では“文治五年に,この館で自刀したのは,義経の影武者である杉目太郎行信であって義経はその一年前に弁慶らをとめない館を出て,束稲山を越え長い北の旅に出たのである”と伝えられている。(佐々木勝三著「義経は生きていた」より)この「伝説義経コース」はこうした伝説の残るいくつかを結んだものでありこの高館が起点である。岩手県観光連盟

## 6. 高館 無量光院・柳之御所

坂を下り再び商店が立ち並ぶ県道を駅に向かって進む。右側の民家が途切れ後方に水田が見えるがその一帯が無量光院跡である。入口を示す大きな看板がある。この看板の右隣に民家があるがその民家の壁際に自然歩道の案内板(地図入り)が立っている。この場所が本コースの終点(または起点)である。他

コースの案内板はこげ茶の地に白文字ですぐ見分けがつくが本コースの案内板は風雨にさらされたせいか塗装が落ち木地そのままに文字が刻まれている状態である。一見,町内会の掲示板と見間違えてしまう。そこから畦道を進むと本堂跡と思われる場所に着く。かつての庭園の池は現在水田となっているがその中島跡には10個くらい直方体の礎石が残っていた。この地に一大伽藍があったことは容易に想像できる。



写真17 無量光院中島跡

近くに柳之御所跡があるので立ち寄る。平泉政庁の跡と言われている。北上川沿いの広い地域にわたって発掘調査が行われたが現在はほとんど埋め戻されている。縦横に遊歩道が通り随所に発掘当時の写真入りの案内板が設置されている。

柳之御所資料館(入館無料,開館時間9:00~16:30,月曜休館)に入る。ここでは発掘された品々を見ることができた。特に陶磁器の展示に興味をひかれた。陶器は渥美・常滑から,磁器は中国から輸入されたもので平泉の文化レベルの高さに驚いた。また,発掘されたかわらけを見学者が自由に手にとって見ることができる。出土品の他に,平泉付近の北上川に関するコーナーがある。北上川はこの付近で



写真18 柳之御所跡



急に川幅が狭くなるため洪水が頻発している。過去の洪水の写真や現在の河川改修工事の状況が展示されている。小生も何度か北上川の洪水に遭遇しているが国の予算は平泉・一関が優先され小生の実家のある水沢にはなかなか下りてこないと市の広報に載っていた。しかしながら水沢地区でも道路の嵩上げは実施済みで冠水する部分が以前より少なくなってきたことが写真を見てよくわかった。

## 7. 平泉町内の日帰り温泉の紹介

悠久の湯 平泉温泉：平泉町平泉字大沢1-1

毛越寺の北側にあるホテル武蔵坊(この周辺唯一の高層建築物なので目立つ)に隣接している。ハイキングコース近くなので便利。¥500。10:00 ~ 21:00。

奥州平泉温泉 藤原の館：平泉町平泉字長倉10-5  
¥350。10:30 ~ 20:00

## 8. 参考文献

1 「関山 中尊寺」中尊寺事務局発行のパンフレット。讃衡蔵内で入手。

2 「特別史跡・特別名勝 毛越寺」毛越寺事務所発行のパンフレット。拝観料を払うと渡された。

3 「駅からハイキング 奥州平泉史跡散策コース」平泉駅に常置のパンフレット。地図がわかりやすい。桜岡橋を除けば自然歩道のコースと同一コースをたどる。

4 「JR 東日本小さな旅 2001 Spring」JR 東日本盛岡支社発行 美味しい店の紹介など。

5 「柳之御所遺跡」パンフレット 柳之御所資料館で入手。

6 「柳之御所資料館」パンフレット 柳之御所資料館で入手。

7 「悠久の湯」パンフレット 柳之御所資料館で入手。

8 「藤原の館」パンフレット 柳之御所資料館で入手。

### 新奥の細道

#### 藤原三代探訪のみち

このコースは、無量光院跡から高館義経堂、中尊寺、毛越寺等藤原三代の史跡、歌人西行・伴人芭蕉・源義経・弁慶等ゆかりの地を結び、桜岡橋に至る6.8KMの歴史探訪のみちです。沿道には毛越寺・中尊寺の坊舎が点在し、往時を偲ぶ縁となります。毛越寺と中尊寺を結ぶコースの途中からは、平泉の街並や東に東稲、西に栗駒の連山が遠望されます。

環境庁・岩手県